

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	洛陽保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	京都ボランティア協会		

平成25年2月7日

総 評	<p>当該保育園は戦後の混乱期に婦人の生活困窮への授産事業を行う目的で、有志の婦人で財団法人洛陽婦人厚生会として設立されました。それに伴って保育園も必要になり昭和25年10月1日に併設され洛陽保育園として認可されました。その後、授産事業は廃止され保育園だけが残りしました。平成3年7月23日に、園舎の老朽化、設備の不備の為、国庫補助を受け園舎の増改築が行われると共に社会福祉法人洛陽会として法人を設立されました。旧園舎の本館は昭和天皇即位の昭和3年に京都御苑内に饗宴場とした建物ですが、老朽化が進み斜面に建てられているために段差が多く、平成25年度には改築の予定です。園庭は狭小ですが「自然とともにだち元気なこども」を保育の柱に、近隣の船岡山や加茂川などに出かけ、自然と触れ合う保育を大切に展開し、園庭を使った季節毎の遊びや、園庭遊びの時間帯をクラス毎で調整し、伸び伸びと遊べる工夫がされています。また、増改築のためにできた段差や廊下を遊びや食事の場所として上手に活用し、工夫がされていました。玄関に入って直ぐのホールは図書が整備され保護者が絵本の貸し出しをして、子ども達の絵本環境の充実に一役買っています。又、大人が利用出来るイスと机を置き、子育て相談や保護者が憩えるスペースにもなっています。玄関を入ったところから見える中庭には大きい石榴の木が建物に食い込んで寄り添い、保育園のシンボルとして大切にされています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育士は、子どもが興味を持って遊べる環境の工夫をし、日々の子どもの様子から保育を振り返り、子ども主体の保育実践が出来る事を大切にしています。 ○ 毎日の生活の中で、ごっこ遊びや自然とかかわる保育に重きを置いて展開されていますが、保育を作って行くプロセスで、職員一人一人が自分の考えを発言するとともに、相手の意見を尊重するなど、互いの思いを大事にする職員関係や保育に対する責任感や主体性が保育実践において活かされています。 ○ 食育では、野菜の栽培やクッキングまた、調理師が魚を調理する处を見せたり、さまざまな食に対する取り組みを通して、食べることを楽しみにする子どもの育成に力を注いでいます。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育所保育指針は、各個人で学習をしていますが、組織として園全体で学習し、共有されることが望めます。その上で、保育課程と指導計画からなる保育の計画を策定し、保育課程では、理念・方針・目的・目標・年齢別育ちとねらい・地域、保護者、子どもの状況と課題を明らかにし、連動させた指導計画を作成されると良いでしょう。指導計画の書式は、乳児の書式、幼児の書式を検討し、担任個人の自由ではなく園として統一された書式が望めます。 ○ 文書の整理、記録について以下の点の改善が望めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童票を、個人別にファイル ・ 法令のリスト化 ・ 個人研修計画の作成と、職員別研修履歴の作成

	<ul style="list-style-type: none">・ 事故報告書と、保護者への伝達や今後の課題等を含め書式の検討・ すべてのマニュアルをファイルに綴じ見やすく活用し易くする。○ 保護者への園の理念や方針等の説明は入園の際や新年度の保護者会でされていますが、保護者会開催時の記録や同意書の提出を求める方法が望まれます。
--	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	洛陽保育園
施設種別	保育園
評価機関名	京都ボランティア協会
訪問調査日	平成25年1月10日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	B
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	B
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	
	I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	B	B
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	B
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	B
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1-1(1)
① 保育の理念、基本方針、目標をパンフレット等に明文化し目指す方向や考え方も読み取れるが、第三者にも分かる編成の仕方が望まれません。
② 理念に基づいた基本方針・保育目標がパンフレットやホームページに明文化されています。

I-1-1(2)
①② 保育の理念や基本方針、保育目標を年度当初の職員会議や保護者会で職員や保護者に周知されていますが、記録に残されていず、周知状況の確認は出来ませんでした。

I-2-1(2)
①保育課程の編成は適切に作成されていますが、見直しがされていませんでした。
②保育課程に基づいて年間指導計画、短期指導計画が作成され、整合性が図られていました。
③指導計画の評価を行い次月の指導計画に活かされています。
④策定時や半期毎、年度末に職員会議で評価を行っていますが、保育課程の見直しは行えていませんでした。
⑤保育課程・指導計画は職員会議で説明したり、クラス懇談会などで出席者の経験を考えて分かり易く説明されていますが、説明した記録としては残されていませんでした。

I-3-1(1)
①管理者の役割と責任は園規則で大まかに記載されていますが、職員や保護者に表明する機会は持てていません。又管理者の行動が、信頼を得て
①②管理者は質の向上や経営の効率化(委員会組織、コストバランスの分析、太陽光発電の設置など)に積極的に取り組みリーダーシップを発揮

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A	
		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	B	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	B
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	C	C
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	B		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	B		
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	B	A		
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	B	A	
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A	
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B	
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A	

[自由記述欄]

II-1-(1)
①事業経営を取り巻く環境を各種会議や地域の関係団体との連携の下に把握し園の組織運営にかかっていますが、今回第三者評価を受診するに当たってより充実させて行きたいと積極的な考えを示されています。

II-2-(1)
①園規則に必要な人材が記載され、各クラスの人員配置は職員体制表に記載し、手厚く配置されています。

II-2-(2)
①②職員の勤続年数は長く就労状況や希望・意見を聞いて把握できるように努めています。福利厚生事業を実施して健康維持の為健康診断の実施や予防接種の奨励を積極的に取り組んでいます。職員が相談しやすいように具体的な窓口や仕組みが整備されていません。

II-2-(3)
①②③研修会参加の記録があり、受講した研修は会議の中で報告をしていますが、職員研修計画書や職員別研修履歴が策定されていませんでした。今後、年間の研修計画を立てると共に 担当者や職員個別の研修計画を立て研修を受ける仕組みと報告書を作成する等で、次の研修計画に反映される事を望みます。

II-2-(4)
①②実習生は複数の保育士養成校から積極的に受け入れマニュアルは整備されていますが、実習担当者への指導者研修は実施されていませんでした。個別の実習計画は養成校と連携を図り、オリエンテーションで話し合い実習計画を作成されています。

II-3-(1)
①近隣の保育園や視聴覚障がい児通園施設との交流、見学を行い、内容を文章化しています。
②③京都市から地域子育て支援ステーションの指定を受け、園庭開放など地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます。ボランティアの受け入れに当たっては職員会議で話し合い方針が理解されていますが、マニュアルの整備が不十分でした。

II-3-(2)
①地域の公共施設・通園施設・地域の社会資源の情報を職員で共有し保育に生かしています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	B	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	C	C
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。		C
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	C
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	B
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	B
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B

[自由記述欄]

Ⅲ-1-(1)
①利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアルが整備されていませんでした。 ホームページにのせる児童の写真や園便りに載せる児童の誕生日等も個人情報に成りますので、同意を得て置かれる事が望ましいです。

Ⅲ-1-(2)
①②苦情解決の仕組みに第三者委員を設置して紙面に明文化し、保護者に説明してフィードバックされていますが、園の規則に明記するとともに、分かりやすい場所に苦情処理の仕組みを利用者に掲示するとお良いでしょう。対応マニュアルは整備されていますが、見直しが行われていませんでした。

Ⅲ-2-(1)
①保育の質の向上に向けた取組は行われていますが、今回第三者評価は初受診で今後は園として保育実践を組織的に評価する仕組みを構築される事を望みます。
②保育士各自の自己評価は指導計画で実施されていますが、保育所全体の自己評価はされていませんでしたので、C評価としています。

Ⅲ-2-(2)
①入園児に、一人一人の児童の状況を把握され記録されていますが、定期的な見直しや変更や変化が生じたときの見直しの手順が定められていませんでした。
②記録管理は施錠の出来る処でされていますが、一部児童に関する記録の保管と管理が各担任が保育室でされています。園の組織として施錠できるところに管理する事が望まれます。また、保存と廃棄に関する規程を定め、園規則に明記される事が望まれます。
③多岐に渡り各種委員会を開催し一人ひとりの園児の情報は話し合わせ、日々の体制の確認や各クラスのその日の予定を確認出来る連絡ノートで共有しています。

Ⅲ-3-(1)
①②ホームページに絵や写真を多く取り入れ、平易の文章など工夫をして情報を提供されています。ビデオは作成されていませんが、それに変わ
①入学後の相談は、年長クラスの担任が当たっていますが、保育終了時に、保護者に対して相談方法や担当者についての説明と、その内容を記載し

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	B
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	B	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	B	B
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	B
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	A

[自由記述欄]

IV-1-(1)

- ①子どもの健康管理は年間計画で実施し、既往症や予防接種の状況の情報は保護者から得て保育に生かしています。健康状態の直ぐれない子どもに対しては保護者と適切に連絡を取り合って柔軟に対応しています。子どもの健康管理に関するマニュアルが作成されていませんでした。
- ②健康診断は幼児は年2回、乳児は年4回実施して「個別の健康記録」に記入して、職員や保護者に伝えて保育に活かしています。
- ③歯科検診は0歳から6歳まで年2回行い職員に周知し保育に活かすとともに検診の結果は保護者に渡し家庭保育に活かせるようにしています。
- ④感染症発生時には学校保健安全法に基づいて保護者に周知してマニュアルに沿って対処しています。発生時は全クラスの発生状況が直ぐ分かる様に一覧表に記入して早期発見や早期対応が出来る様にしています。
- ⑤食育は体づくりや食べる事を楽しみにする子どもを育てる為に力を入れた取り組みとされています。玉ねぎの皮をむく等の食材に触れる機会や菜園活動の収穫物を使って調理、配膳、片づけを子ども達が見たり参加したりすると共に、様々な食事スタイルの工夫でバイキングや戸外で食べたり、食への関心が持てる様にしています。又、個人差や食欲に応じて、量を加減できる様に工夫をしています。
- ⑥旬の食材を取り入れ、和洋中と子ども達が楽しみながら食事が出来る様に工夫をしています。また、一人ひとりの子どもの体調や食べる量を考慮したり好き嫌いを把握して調理の工夫がされています。
- ⑦給食の献立表を作成し事前に渡したり「給食だより」を発行して食事の大切を保護者に伝えていきます。離乳食を展示したり、保護者が試食が出来る機会を設けたり、毎日の給食を展示して、レシピも添えて保護者に渡して食事への関心を促し、子どもの食事の重要性を保護者に伝えていきます。
- ⑧アレルギー疾患のある子どもは、かかりつけ医の指示書をもとに除去食や代替食の提供を行うとともに他の子ども達との相違に配慮されています。

IV-1-(2)

①保育室には温度、湿度や空気清浄機の設置で快適に過ごせる配慮、整理整頓・衛生面の整備もされ心地よく過ごせる環境は配慮されています。
 ②子ども達が心身の安らぎ、くつろぎが得られて安心して生活し遊べるように工夫されています。特に年齢の低い子どもは一人ひとりに応じた

IV-1-(3)

①指導計画に一人ひとりの子どもを受容する為の援助が書かれています。日ごろの保育でも努めていますが、場面場面で子どもを待たせたり急が
 ②基本的な生活習慣が身につけられる様に、年齢や個々の発達に応じた工夫や配慮をし、トイレに行く、衣服脱着、後片付けなども含め生活の中
 ③子どもが自発性を発揮できるように発達段階に合わせた玩具や遊具、自由に遊べる時間、遊びのコーナー等も含め、主体的にあそべる環境の
 ⑤リトミック表現や歌、楽器遊び、描画活動を大切に劇遊び、ごっこ遊びなどは職員の中でテーマを持ちながら年間の取り組みとされています
 ⑦子どもの自我を尊重し友達の思いも受け入れる様に言葉がけをしています。また、保護者にも懇談会の場などで保育園での取り組みを知って
 ⑧性差による環境の違いや遊び、着衣の違い等の先入観による固定観念を持つことがないように配慮して保育をされています。
 ⑩園として30分延長に取り組み子どもが絨氈などで寛いで遊べる家庭的な雰囲気が感じられるように工夫し、異年齢で遊んだり一人でゆっくりで
 ⑪障害のある子どもを含めて共に育ち合うことを大切に自然体と一緒に遊んだり援助出来る育ちを配慮しています。段差が多くバリアフリーに

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	①一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		②家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	B
		③子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	B	A
		⑤虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	B
	IV-2-(2) 一時保育	①一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	未実施	非該当

[自由記述欄]

IV-2-(1)

①②各年齢により見やすく伝わりやすい連絡帳や生活表を用いて送迎時に保護者と情報交換を行っています。必要時には個別懇談を行うなど、育児支援を行っています。保護者から聞いた情報や支援の内容は会議の場で伝達し職員間の共通認識にしていますが、記録は残せていず、記録の仕方について、統一化されていません。
 ③0歳から2歳児は年2回、3歳から5歳児は年3回の懇談会の場を持ち、子どもの姿や育児について情報交換を持っています。保育参加は4歳と5歳児クラス年1～2回行い、保護者と共通理解を得る機会を持っています。0歳から3歳児クラスは、製作展や日常生活を写真を掲示することで情報の共有が出来る場にしてあります。
 ④⑤虐待対応マニュアルを整備し、児童相談所や福祉事務所などと連携が図れるように事務所に連絡先を掲示しています。職員は児童相談所の職員により、ケース検討をする等共通認識を持てる機会があります。
 ⑥子ども一人ひとりの記録など個別ファイルとして整備されていませんでした。又、記録内容にばらつきが生じないような工夫も必要です。小学校との交流については、入学する小学校が多校に亘る為、行事などの交流はできていませんので地元の小学校と交流する機会を持たれる事をお勧めします。

IV-2-(2)

①一時保育は京都市からの委託事業に成っていますので、当該保育園は該当されていませんでした。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

[自由記述欄]

IV-3-(1)
 ①給食室の衛生管理を常に心掛け業務終了後、作業前の消毒に取り組み、週一度、水周りの清掃に取り組み、衛生管理を心掛けていますが、マニュアルは整備されていませんでした。
 ②食中毒の発生時に対応ができるマニュアルは、作成され全職員に周知されていますが、マニュアルの定期的な見直しは行われていませんでした。
 ③事故防止のため常に安全管理や「ヒヤリハット」等の事例を活用して話し合い、危険な処は早く改善できるようにし事故防止に取り組んでいます。
 ④事故防止に向け遊具の点検や生活場面での安全点検は不定期に行い、ヒヤリハットの事例を活用して職員の研修に取り組んでいます。災害の発生時等のマニュアルがあり避難訓練はされていますが、職員への研修やマニュアルの定期的な見直しには至っていません。
 ⑤不審者の侵入時の対応マニュアルが整備されています。警察等との連携による研修は出来ていず。マニュアルの定期的な見直しには至っていません。